

# さざなみ

ISSN 0286-1100



石山寺「月見亭」付近より  
瀬田川～琵琶湖を臨む  
(詳細は8頁)

(上)明治 30 年代頃に撮影された古写真  
(国際日本文化研究センター所蔵)

(右)平成 12 年 5 月に撮影した写真  
(撮影：学生課 成宮護)



## 滋賀医科大学附属図書館報

No.46

## 目 次

2000 年 8 月

21 世紀の医学図書館のビジョン	-----附属図書館長 木之下 正彦 -----	2
歌集をとおして	-----精神医学講座 教授 大川 匡子 -----	3
シリーズ「本との出会い」(10)		
本を手にとりて読む喜び	-----基礎看護学講座 教授 野島 良子 -----	4
図書館探訪 ～大阪医科大学附属図書館～	-----	5
附属図書館利用講習会(報告)・医学図書館ホームページ講習会(報告)	-----	6
お知らせ		
オンラインジャーナル・医中誌 Web 版・時間外特別利用(24 時間利用)	-----	7
本学関係者寄贈図書	-----	8
附属図書館委員会委員(平成 12 年 8 月 1 日現在)	-----	8
表紙写真について	-----	8

## 21世紀の医学図書館のビジョン

附属図書館長 木之下 正彦



私はこの春定年退官されました小玉正智図書館長のあとを引き継ぎ、平成12年4月より就任致しました。

近年国立大学は独立行政法人化をふまえ、大きな変革を迫られています。図書館も例外ではなく、IT革命によって図書館は書物の収集・保存・提供機能に加えて、電子媒体情報の発信基地へと変化しつつあります。この数年外国雑誌の価格高騰、文部省予算の0シーリングにより医学図書館の財政は危機的状態に陥っています。今後とも外国学術雑誌は論文数の増加、出版ビジネスの変化、電子化への先行投資等で20年後には7倍にも価格上昇するともいわれ、今後も購入雑誌数を減らさざるを得なくなります。これを解決する1つの方法として電子図書館的機能の強化が提唱されていますが、出版者側の問題としては、冊子体の購読シェアが狭められかつ大半のジャーナルがオンライン化に移行した場合においては、オンライン化自体に大きな経費がかかり、必ずしも雑誌価格は安くないということです。したがって電子ジャーナル購読図書館のコンソーシアム化にとりくみ、総価格を負担する機関数の増加により1図書館の負担分を減らすことが必要です。このコンソーシアム化により、各図書館は多くの種類の雑誌にアクセスできるようになるわけです。オンラインジャーナルにはいまだ反対する人も多いと思います。その理由の1つに、学術情報には高精度の写真情報を多く含むので、今のインターネットの技術水準では不十分である、また、バックナンバーへのアクセスができない等の問題があるというものです。しかし現在でもフルカラーで400万画素以上を越える超高細密(Super High Definition, SHD)画像技術が開発され、その技術を利用して21世紀の図書館情報システムの構築が期待されています。

一方、全国の医学図書館がいくつかのグループを組んで、外国学術雑誌(冊子体)を共同で分担購入し、できる限り多種類の雑誌を(例えば近畿地区レベルで)継続購入することによって削減をくい止めようとする方策も必要ではないかと考えます。

情報発信基地としての図書館機能は、学生教育支援、研究支援、医療現場へのEBM等の学術情報提供、そして、既に本学の図書館で実施していますが、入院患者・家族への情報提供サービスの充実、関連病院や地域住民への医学情報提供サービスがあります。以上の医学・医療における図書館機能を時代に即応させるには、医学図書館のネットワークによる有機的な連合が不可欠であり、その中心となる国立医学図書館の創設、図書館職員の専門化が必要であると考えます。いずれにせよ滋賀医科大学の発展には医学学術情報発信基地としての図書館の充実なくしては不可能であると考えますので、関係各位のご支援をお願いする次第であります。

(きのした まさひこ)

## 歌集をとおして



精神医学講座 教授 大川 匡子

日頃診療をしながら患者さんがよくなっていくのを見ることができるのは医者にとって大きなよろこびです。精神科の診療ではいつも患者さんの話から病状を知ることになりますが、あまり話したがらない、あるいは話すこともつらいような患者さんも多く、十分に心を通わすことが困難なこともあります。また2週間や1ヶ月ごとの外来診療で短時間の間にそれまでの経過を十分にきけないこともあります。

若い頃から短歌を趣味にしているという品のよい一人の老婦人が私の前にあらわれました。もう十年ほど前になります。「長い間眠れなくて困っているのですが」と眠れない苦しみを話してくれました。いつものようによい眠りのとり方の話をして睡眠剤を処方しました。その後何度か通って下さるうちに、「この雑誌は私が編集している短歌の会のものです。読んでみて下さい」と一冊の小冊子をおいていきました。外来診療が終わってほっと一息つきながらパラパラとめくっていると

ねむりぐすり よ  
導 眠 劑効かざる夜々の闇ふかき 永き時間あり わが残る生に

くすし ひるい  
医 師より課されし昼 寝ねむれねどこの暫くを虚心にあらむ

というこの女性の句が目に入ってきました。

次の診療のとき私が短歌のことをたずねると、茂吉の流れを継ぐ短歌会でこの女性は歌会の会員たちとの交流や創作活動をしていることを知りました。その後も時々新しい号をいただきました。

その中にはこの女性の日々の暮らしがわかる歌が折り込まれ、普段の診療室の場面よりもはるかに雄弁にこの方の生き方を語ってくれていました。

あとがきに「作者の影の見える作品を」と書いておられました。

この女性の作品にも雰囲気や詩情が漂い、感情や心情が伝わってくるようです。

長いお付き合いのうちに、私自身がこれまであまり縁がなかった短歌を作ってみたくなってきました。春、近くの池を散歩している時に会った光景を何とかうまく表現したいものと語句を組み合わせてみました。次の診療でこの話をしたところ、その女性は「先生ぜひ私にみせて下さい」とうれしそうにいつてくれました。

私が転勤することにあたり長い間のお付き合いの終りを告げたところ、次の手紙に

遠き地へ転勤しゆくと言う聞けば涙の出づる如し診察室に

とかかれていました。そして送られてきたこの女性の歌集「てっせん花」のなかに

すでにして冬の星座の移りゆきおほやかに昇る春の星々

といった夜の楽しいすごし方もかいまみられ、なお不眠がありながらも、力強く創作をしている姿に感動させられました。

この女性と短歌との出会いで私自身にも新しい世界が広がって来たように感じます。今もすばらしい光景に出会うと歌にしてみますが、一向に満足いく作品ができないでいます。いつか近江の地からこの方に短歌を送りたいと考えている今日この頃です。

(おおかわ まさこ)

---



---

シリーズ「本との出会い」(10)

## 本を手にとって読む喜び

基礎看護学講座

教授 野島 良子




---



---

必要があって、久しぶりに九鬼周造の『いきの構造』を書棚からとりだしてみた。1930年に岩波書店から初刷りが出されているが、私の手元にあるのは1981年に出た31刷りである。それでも私にとっては宝物のように大事な本であるから、これは仕舞っておいて、普段読むときには文庫本で間に合わせている。読みながら気がついたこと、感じ入ったことをメモ代わりにページの余白に書き込む癖があるから、その点文庫本だと気兼ねがなくていい。しかし、その本が書かれたときの著者の心の動きのようなものを、手にとってじかに感じとるのには、やはり初版本かそれに近い版がいい。活字の大きさと行数と紙質とが一体となって醸し出すその書物特有の雰囲気を楽しむのも、何ものにも代え難い読書の喜びのひとつだからである。

『いきの構造』を読むときに私がいつも心底感銘を受けるのは、「「いき」といふ現象は如何なる構造をもっているか。」に始まる冒頭の数行である。文字数は、たった173。この中に、解明しようとする問は何であるか、どのような方法によってそれを解明しようとするのか、その意義はどこにあるか、が見事に述べられている。「いき」の意味に明晰を

与え、判明にすることが「いきの構造」を明らかにするために九鬼周造が採った方法であるわけだから、冒頭の記述のこの平明さこそ彼の探求方法の見事な象徴ではないか。私はいつもそう感じながら読む。

同じような感銘を受けるものに、フローレンス・ナイチンゲールが1893年に書いた文章がある。その年シカゴで開催された大博覧会へ送った「女性の使命」というメッセージであるが、次のように始まっている。"A new art and a new science has been created since and within the last forty years. And with it a new profession --- so they say; we say, calling."----彼女は、たったこの2行で、彼女が近代看護の本質と考えた、そして今日もわれわれ看護の仕事に携わっている者が皆、看護の本質であると思っているすべてを語り尽くしている。近代看護学の出発点となった『看護覚え書き』はもとより、地域看護や病院管理、衛生行政や衛生統計など、生涯に膨大な数の論文や報告書を書いて時の英国政府の保健行政に大きな影響を与えた女性であるから、彼女にとって要を得た簡潔な文章を書くことなどさほど難しいことではなかったのかもしれないが、この導入部につづいて、健康とは何か、病気とはなにか、看護婦が対象とする人間の生命は他の生命とどのように異なるか、だから本来の看護とは何かと、畳みかけるように述べていく様には彼女の強い意志の力を感じさせる響きがある。

今はインターネットを通してあらゆる情報を瞬時に手に入れることが可能な時代である。おしゃれな装幀の書物を手にとって、それを味わいながら熟読玩味するような悠長な読書はもはや時代遅れなのかもしれない。しかし、媒体がインターネットに変わっても、すでに冒頭の数行から、明晰・判明な言葉を通して著者の意志が凜として伝わってくるような書物を手にとって読む喜びだけは、これから先も変わることがないのではなからうか。

(のじま よしこ)



## 図書館探訪 ～ 大阪医科大学附属図書館 ～



図書館外観

2階正面の図書館出入口を入ると左側にカウンター、右側には新着雑誌コーナーがあります。整然とした広い空間と機能美を追求した上質な天童木工と丸善の調度類が、医学図書館らしいアカデミックな雰囲気醸し出しています。カウンターの向かいには、大阪医大医師会より寄贈されためずらしい手巻き時計である高さ2m強の大型フロア時計「ウルゴス床置時計」が鎮座しています。15分ごとにメロディーが流れるしくみになっています。この時計は阪神淡路大震災のときにはびくともしなかったそうです。

2階は主として洋雑誌と参考図書フロアです。また、OPAC、医学中央雑誌、Current Contentsなどの検索端末があり、Medlineは学内LANに対応しています。



ウルゴス床置時計



館内中央螺旋階段

螺旋階段を3階に上がると開架図書と和雑誌のフロアになっています。新館オープン後、看護専門学校図書室が併設され、看護学について集めた看護図書コーナーも設けられています。窓側には閲覧席の他、研究個室、グループ学習室、AV室があります。閲覧席からはベランダにある藤棚のグリーンがよく見え、利用者の目を和ませてくれています。

地下には集密書庫があり、主として1988年以前の雑誌および古い図書約1万冊が納められています。

4階の展示コーナーには医学書の古書・貴重史料等が展示され、大切に保存されています。

平成8年には図書館のホームページを開設し、将来は地域医療機関とのネットワークを実現し、医学、医療、看護情報サービスの向上を目標にしているそうです。

## 附属図書館利用講習会(報告) (平成12年4月～7月)

昨年9月の「コラボレーションセンター」施設の完成に伴い、今年度から利用指導や施設案内のオリエンテーションをマルチメディアセンターと合同で実施しています。特に新入生オリエンテーションでは3班に分かれ、施設案内や講義室での利用指導や演習室でのパソコン操作方法などを実施しました。

- 4月3日 新規採用職員への図書館案内
- 4月11日 新入生オリエンテーション
- 4月13日 少人数能動学習での情報検索ガイダンス
- 5月8日 平成12年度医学総合研究特論(大学院特別講義)文献検索に関するオリエンテーション
- 5月15日 平成12年度医員(研修医)オリエンテーション・文献検索ガイダンス
- 6月23日・8月1日 滋賀県健康福祉部健康対策課・平成12年度保健婦中堅者研修会での文献検索ガイダンス
- 7月11日 社団法人滋賀県看護協会・第7回看護管理(ファーストレベル)研修会・「看護研究」の文献検索ガイダンス



施設案内



パソコン実習

## 医学図書館員のためのホームページ作成入門講習会 (平成12年4月22日)

日本医学図書館協会の教育・研修事業の一環として、本学マルチメディア係長・白木俊男氏が講師となり、本学コラボレーションセンター内演習室において標記の講習会を開催しました。

近畿地方の医学・薬学図書館ならびに病院図書室勤務の方々を中心に、東は愛知県から西は岡山県までの総勢24名の参加者が、ホームページの基本的概念から始まり、その場でデジタルカメラで撮影した画像も取り込みながら、実際にホームページの作成演習を行いました。

## お知らせ

### オンラインジャーナルについて

附属図書館のホームページの中にオンラインジャーナルのリンクがあります。

オンラインジャーナルとは、学術雑誌の出版社が学術雑誌の内容（学術論文）を電子ファイル化しホームページに載せる事によりインターネットで研究者に提供するものです。

現在本学図書館では雑誌の冊子体講読により無料で提供されるものを104タイトル載せています。24時間利用可能であり、同時に複数人が利用できる、検索機能がある等の便利さがある反面、契約が切れると読めなくなり図書館には何も残らない、通信環境によってはアクセスに時間がかかる等の問題点があります。

また、現在のところオンラインジャーナルを提供する出版社の思惑、方針も様々であり、各社とも本格的に運用するためのテストを兼ねた過渡期と思われます。

さまざま不安定要素はありますが、利用可能なものは順次ホームページに載せていきますので、ご理解とご利用をお願いします。

### 医学中央雑誌 web 版(トライアル版)使えます！

2000年4月より、医中誌のweb版検索サービスが開始されました。CD-ROM版と異なり、複数の集録年を同時に検索することができます。提供データは、現在のところ1994～2000年のものです。

(2001年より1987年までカバー予定)

まだトライアル版ですが、図書館ホームページからリンクしていますので、どうぞお試しください。

URL <http://login.jamas.gr.jp/>

学内ユーザーのみ。トライアル期間は2001年3月31日まで



### 時間外特別利用(24時間利用)について

昨年12月から、医学科第5・6学年および看護学科第4学年のうち、申請手続きを経て許可された学生の皆さんの特別利用が再開されました。

時間外「特別利用」は利用者の皆さんと図書館のお互いの信頼関係で成り立っています。利用マナーを守ることにより、図書館を快適かつ安全に利用していただくことができます。次のことには特に気をつけてください。

1. 館内での飲食はできません。飲食物の持ち込みもできません。
2. 館内での携帯電話は使用できません。
3. 座席取りはできません。(閲覧機の長時間占有と私物の放置はしないこと。)
4. 利用者用検索パソコンのシステム改ざんはしないでください。  
(検索中のままにせず、検索を終了してから席を立つようにしてください。)
5. 利用した資料は、元の場所に返すようにしてください。

## &lt; 寄贈図書紹介 &gt;

「コンパクト生化学」	大久保岩男教授(生化2)	共編
「耳鼻咽喉・頭頸部手術アトラス 下巻」(医学書院 2000)	北嶋和智教授(耳鼻)	執筆者
「快眠の医学」(日本経済新聞社2000)	山田尚登助教授(精神医学)	班員
「炎症性腸疾患」(へるす出版1999)	馬場忠雄教授(2内)	編者
「バイオサイエンス有機化学」(化学同人2000)	安藤喬志教授、木村隆英助教授(化学)	訳者
「Q&A 腹腔鏡下胆嚢摘出術」(医学書院1996)	小玉正智教授(当時)(1外)	監修
「血漿浄化療法」(医学書院1996)	小玉正智教授(当時)(1外)	著者

## &lt; 表紙写真について &gt;

表紙写真を所蔵している国際日本文化研究センターでは、明治30～40年代において外国人観光客向けの「おみやげ写真帳」として作製された古写真を数多く収集している。この表紙写真も明治時代に撮影されたときには、職人がモノクロ写真一枚一枚に手で色づけをし、まるでカラー写真のように完成させたものである。

表紙写真は、石山寺の月見亭から瀬田川～琵琶湖を臨んで撮影されたものであり、周辺の風景は自然の趣きそのまま、いかにものどかな静けさが伝わってくるようである。

また、見晴らし台の人物からは当時の風俗を垣間見ることができる。下欄に添付しているのは、同じ場所から最近撮影した写真であるが、昔とは随分様相が異なり、すぐ手前の橋では車が行き交い、川の向こう岸には住宅が見え、人々の活気が伝わってくる。

## &lt; 附属図書館委員会委員 &gt;

平成12年8月1日現在

教授 木之下正彦 内科学第一講座 (委員長)	教授 大川 匡子 精神医学講座
助教授 小林 隆幸 物理学	教授 吉武 一貞 歯科口腔外科学講座
助教授 森田 一平 独語	助教授 豊田久美子 基礎看護学講座
教授 小笠原一誠 病理学第二講座	教務部長 中村 敬
教授 西山 勝夫 予防医学講座	

---

滋賀医科大学附属図書館報「さざなみ」No.46 2000年8月発行

編集・発行 滋賀医科大学附属図書館 〒520-2192 大津市瀬田月輪町

Tel.077-548-2077 : Fax.077-543-9236 : [e-mail.hqtosyo@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:e-mail.hqtosyo@belle.shiga-med.ac.jp)

---